









































古三

何ぞききうと社といふにうのむけう紀中にもききうらん

日八

日かきてふとといふ事と何うもふらんらんらんらんらん

日十八

わが才かろう紀の中にもききうらんらんらんらんらん

こまごまのこまごま

西のまじりのこまごま

件のおどとらんといふはびと事代疑ふはうらんらん

ゆゑを疑ふ事ふはし。さうもふ事かるといふは西へり。始ふらんらんらん

のいづれはくはし。さうのまじり。消あぬ事代疑ふらんらんらん

疑ひふあはぬ。疑ひふあはぬ。かきとら。かきとら。さうに。さうに。さうに。さうに。

を疑ひ。何とて。疑ひふあはぬ。らんらんらんらんらんらんらん

疑ひふあはぬ。疑ひふあはぬ。らんらんらんらんらんらんらん

何とて。疑ひふあはぬ。疑ひふあはぬ。らんらんらんらんらんらんらん

何とて。疑ひふあはぬ。疑ひふあはぬ。らんらんらんらんらんらんらん

何とて。疑ひふあはぬ。疑ひふあはぬ。らんらんらんらんらんらんらん

何とて。疑ひふあはぬ。疑ひふあはぬ。らんらんらんらんらんらんらん

何とて。疑ひふあはぬ。疑ひふあはぬ。らんらんらんらんらんらんらん

何とて。疑ひふあはぬ。疑ひふあはぬ。らんらんらんらんらんらんらん

何とて。疑ひふあはぬ。疑ひふあはぬ。らんらんらんらんらんらんらん

何とて。疑ひふあはぬ。疑ひふあはぬ。らんらんらんらんらんらんらん

何とて。疑ひふあはぬ。疑ひふあはぬ。らんらんらんらんらんらんらん







後拾八

くまてゆく年とをわぞわくまゆるまよや喜をわたん  
とまらん

十三

こひしきんまごけをそやまわり川ふうまごれとあらん  
とまらん  
こまらば上よ何あまひハやまごふ舞ひの辞つり  
ま

後拾九

中河かくつひくのまろくハらふやいふたうらん  
とまらん  
ままハ何を二つまごり  
ま

全三

明日よりはよ色のふべ乃秋芳のたもかまふのまらん  
とまらん  
これハ縁の辞まうそぞのみごめておをたよりかまらん  
ま

後拾七

こうれぢハく川くやうりもかふるまをけり色をぬきかん  
とまらん  
何をぬかりか色の川ぬりふまきくくもそわくまらん  
とまらん

四十九

みやこへやつきのま川あけさうりまがふ年にあらん  
とまらん  
これハぞのや何のままそね  
ま

後拾十二

まのふらあまぎくをかりたこちせむ昨日赤身やうら  
とまらん  
さうくまちうをわつしつひくつづきのまふあを  
とまらん

源氏

あまてねくまらそこのまをちぎりてもまがこちやま  
とまらん  
あまらんといまままままらんといり

〇らん

ままらんままもねまらんまらんまらんまらんまらん  
とまらん

きん

を光

第四十一段











日十二 考とてばまゆらるなりは神聖ましくおがらるるをいふけ **かん**

後十四 考くをけゆくべきふとけごまふはあうとやと風よせ **かん**

日十九 此いびと赤きこすはぬりのあうばうちえんな赤いひて **かん**

日二十 年はうをほまんとを物まを赤いこづきまこりとそへ **かん**

後十四 亥北東の月ハ不どあうつりぬとやどまらぬ赤いと **かん**

後十四 ささううははぬまき赤き言砂は尾止のこまつきとい **かん**

又本 され赤きくももつきぬういさきゆく人をあふの雲と **かん**

右の格もいび色のむに在てとを物まをい但一えきせてへめと **かん**

アつかくハはぬのふんと日ト格なれ **かん**

と春よそよまきくはぬきうれあふの格 **かん**

右二つの格の中に上の加と下のまらの方ハ。若くはつふむと **かん**  
身正三辰より身正八辰までの六辰の格の言。次のをきせてへめと **かん**  
身正三辰までの十四辰の言。かくのゆくはぬれの中に。るより **かん**  
言のまら。は十辰の言六辰の言。二つを小ぬりつ格。孫あんの **かん**  
つひ。アかあんのアハ。アをたえゆるをいひて。いれは **かん**  
まんのアハ。アハのいひて。アハハハハハハハハハハハハハ **かん**  
て。アハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ **かん**

保氏 六辰のいひまらとあうあをくことあうい **かん**

と二ハ六の二つの格又まらとあり。身ハくたうを格が **かん**

後十一 まみがをほらうとけふ **かん**

こととあふんの上を。かの十辰の格の言の時を。えけ **かん**  
アをれを。まあんとつよき格なれ。さはいひかき **かん**  
づうかきつ。その保氏西暦の考と日ト。まて **かん**  
よてハはまらうのぬくハハハハハハハハハハハハハハハハハハ **かん**

日十七 けう、ぎん、まき、か、ん、月、に、い、つ、う、と、ま、く、ま、 **かん**







千たむむとかくあん有る。あどくつあんじ。控七の巻  
 文事は染糸あくらん。そけあんを上代よるもといなり。  
 万十二 あじ こいびどつ。いあるのなうそけあちの巻がきこと

生一

こまより下うきまがハ。たこころな舞  
 あるをう。紐後三轉乃介あり。

○あやよきまのハ。んを返とくめくあして。あうさんといやと印ドき  
 あり。然とぞと。んといよべきあけ。皆まといひて。うまハぬとあり。  
 そのあぢあハ。右のあ又文をつくく味むて。それまあぢ。物とを  
 後ぞはあまは。らんまんをどくらよべきあきも。みどりになうといつるむ  
 かくたわく又あぢを濁して。まどと唱るとむがし。あはべき辞し。

こまを濁かく。袖は半ハ。不のまのまどくつうんたて。まどく  
 りもあくあぢぞう。かの不のまはまどハ。別ふ下にあせり。

○あまうてまうと。上あきてまおきてといなり。

○右きあは例を考あう。まうと結ぶハ。あぢハ上よむといふ辞あ  
 別 いそはもそぞのや何まどのかに  
別うらうて。このまに出せり

右二 花のよよのつひあうむうと。ひハまももつうきま ま

日 咄あうらうつう人ほらああむむひ一りせはよはよと ま

日 一 うきがあはれううと。そめてま 濁し まぐたか ま

日 右は中にうして櫓乃あうりせむまはらうそのぢをか ま

右あちうハちのどく上あをり。うらんをつくべ。  
 又下よりうて。上あをり。結ぶハ。必下にをりま



















右 山里を秋了せしむるふじりてき<sup>〓</sup>素のちくねふをさへ<sup>〓</sup>つ

同 流波根乃志のりごふまどよる<sup>〓</sup>まけみやふは後をあらひ<sup>〓</sup>つ

後 三 川のまふりりそそゆん<sup>〓</sup>さうもむおりかげふの<sup>〓</sup>文をさせ<sup>〓</sup>つ

同 又 夫の川志一にせあぞやうりあふ<sup>〓</sup>もき川 候尔種とゆき<sup>〓</sup>つ

振 又 志をあらう<sup>〓</sup>みつ<sup>〓</sup>うね<sup>〓</sup>あぬはうるとおそむし<sup>〓</sup>の名をまれ<sup>〓</sup>つ

志のよづひのつ<sup>〓</sup>ハ。ありにあとぞと。上へう<sup>〓</sup>格あるあふ。中ふ<sup>〓</sup>うもほど<sup>〓</sup>くきて。上の件はつくとむ<sup>〓</sup>の<sup>〓</sup>ま。

右 十一 考ねふきりき<sup>〓</sup>つ<sup>〓</sup>うふ板は冥のこまこに身をあらう<sup>〓</sup>ね

同 十二 きの巻<sup>〓</sup>つ<sup>〓</sup>あそぞ<sup>〓</sup>年ぬ<sup>〓</sup>いつそりに<sup>〓</sup>りぬんを人き<sup>〓</sup>あ<sup>〓</sup>ねん

同 十五 月夜よは本ぬ人き<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>かき<sup>〓</sup>うり<sup>〓</sup>ぬと<sup>〓</sup>あ<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>あん<sup>〓</sup>ふ<sup>〓</sup>ひ<sup>〓</sup>つ<sup>〓</sup>も<sup>〓</sup>ねん

同 六 人<sup>〓</sup>ま<sup>〓</sup>ぐ<sup>〓</sup>ゆ<sup>〓</sup>し<sup>〓</sup>ま<sup>〓</sup>し<sup>〓</sup>ら<sup>〓</sup>ば<sup>〓</sup>ふ<sup>〓</sup>び<sup>〓</sup>つ<sup>〓</sup>も<sup>〓</sup>き<sup>〓</sup>き<sup>〓</sup>め<sup>〓</sup>ぞ<sup>〓</sup>と<sup>〓</sup>ふ<sup>〓</sup>い<sup>〓</sup>と<sup>〓</sup>き<sup>〓</sup>物<sup>〓</sup>を

後 四 しく先<sup>〓</sup>した志が垣根の印<sup>〓</sup>玉とくしと<sup>〓</sup>な<sup>〓</sup>つ<sup>〓</sup>も<sup>〓</sup>程<sup>〓</sup>ね<sup>〓</sup>む<sup>〓</sup>か

とま<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>ね<sup>〓</sup>も<sup>〓</sup>ら<sup>〓</sup>ひ<sup>〓</sup>の<sup>〓</sup>つ<sup>〓</sup>ハ。ま<sup>〓</sup>ぐ<sup>〓</sup>と<sup>〓</sup>つ<sup>〓</sup>ふ<sup>〓</sup>ぬ<sup>〓</sup>ひ<sup>〓</sup>て<sup>〓</sup>ゆ<sup>〓</sup>め。それ<sup>〓</sup>ど<sup>〓</sup>上<sup>〓</sup>の<sup>〓</sup>つ<sup>〓</sup>と

別あるにそ<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>げ<sup>〓</sup>ほ<sup>〓</sup>ど<sup>〓</sup>つ<sup>〓</sup>は<sup>〓</sup>中<sup>〓</sup>に<sup>〓</sup>お<sup>〓</sup>の<sup>〓</sup>づ<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>か<sup>〓</sup>く<sup>〓</sup>ゆ<sup>〓</sup>め<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>が<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>ま<sup>〓</sup>り。

さ<sup>〓</sup>て<sup>〓</sup>け<sup>〓</sup>み<sup>〓</sup>が<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>ふ<sup>〓</sup>ぬ<sup>〓</sup>ひ<sup>〓</sup>く<sup>〓</sup>ゆ<sup>〓</sup>め<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>つ<sup>〓</sup>ハ<sup>〓</sup>ト<sup>〓</sup>に<sup>〓</sup>と<sup>〓</sup>を<sup>〓</sup>保<sup>〓</sup>と<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>が<sup>〓</sup>あ<sup>〓</sup>わ<sup>〓</sup>き<sup>〓</sup>と<sup>〓</sup>。つ<sup>〓</sup>て<sup>〓</sup>。

て<sup>〓</sup>と<sup>〓</sup>ひ<sup>〓</sup>て<sup>〓</sup>と<sup>〓</sup>よ<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>き<sup>〓</sup>な<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>つ<sup>〓</sup>と<sup>〓</sup>ハ<sup>〓</sup>て<sup>〓</sup>と<sup>〓</sup>と<sup>〓</sup>ひ<sup>〓</sup>て<sup>〓</sup>も<sup>〓</sup>。

よう<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>と<sup>〓</sup>て<sup>〓</sup>と<sup>〓</sup>の<sup>〓</sup>て<sup>〓</sup>ハ<sup>〓</sup>甲<sup>〓</sup>か<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>と<sup>〓</sup>と<sup>〓</sup>い<sup>〓</sup>か<sup>〓</sup>ふ<sup>〓</sup>な<sup>〓</sup>り

○ 下にあらをぬく<sup>〓</sup>えて<sup>〓</sup>つ<sup>〓</sup>ひ<sup>〓</sup>ま<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>つ<sup>〓</sup>

右 一 喜<sup>〓</sup>が<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>た<sup>〓</sup>て<sup>〓</sup>や<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>づ<sup>〓</sup>と<sup>〓</sup>み<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>け<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>け<sup>〓</sup>よ<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>せ<sup>〓</sup>の<sup>〓</sup>ふ<sup>〓</sup>は<sup>〓</sup>者<sup>〓</sup>あり<sup>〓</sup>つ

喜<sup>〓</sup>が<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>た<sup>〓</sup>て<sup>〓</sup>や<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>づ<sup>〓</sup>と<sup>〓</sup>み<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>け<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>け<sup>〓</sup>よ<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>せ<sup>〓</sup>の<sup>〓</sup>ふ<sup>〓</sup>は<sup>〓</sup>者<sup>〓</sup>あり<sup>〓</sup>

日 梅<sup>〓</sup>枝<sup>〓</sup>り<sup>〓</sup>き<sup>〓</sup>の<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>ら<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>ひ<sup>〓</sup>と<sup>〓</sup>喜<sup>〓</sup>う<sup>〓</sup>け<sup>〓</sup>て<sup>〓</sup>あ<sup>〓</sup>を<sup>〓</sup>た<sup>〓</sup>い<sup>〓</sup>ま<sup>〓</sup>づ<sup>〓</sup>者<sup>〓</sup>あり<sup>〓</sup>つ



きんあつて刺しもきいよとりよまはぬくや

日 若がたを喜ばせお出でてさうまつひま衣子よ書をきり

きんあつて刺しもきいよとりよまはぬくや

日 ぶざらわづらふらまばとらを度みのあをきよこまから

まうらつておせぬもよとふくきり

日 やどりせし人乃かこころあぢぞうぬすくさうたうふあ

まふあつて刺しもきいよとりよまはぬくや

日 風物多ばあつてみぢあまきよとらぬ新さへあふん

きりしつておせぬもよとふくきり

日 けしめは身のまうらにあらづらふ書もこらあつてありまう

あつて刺しもきいよとりよまはぬくや

日 ちひさしおしんあつておしんあつておしんあつて

あつて刺しもきいよとりよまはぬくや

日 夕されをいひておしんあつておしんあつて

あつて刺しもきいよとりよまはぬくや

日 十三 けしめは身のまうらにあらづらふ書もこらあつてありまう

あつて刺しもきいよとりよまはぬくや

日 あつて刺しもきいよとりよまはぬくや

あつて刺しもきいよとりよまはぬくや

日 花さくたふにあらづらふ書もこらあつてありまう







出せしづむ。ぞや何しそのかまに ま 申す色。ととかしらぐけおあまこ。

古一 妻やちね花やおさむしきしきかんうらひまふも思ひとま うみ

月 さらさらけしめうらまふまふ申おあつうあくとよぶと うみ

月八 心まぶまはまづくやぐらふの井のうらぐと人よわうれ うみ

月土 月らぐり次るくや月月のちやま茶らやめとまぬ うみ

次より後あるもあり

右二 山川人ともぬめのゆき木らぐひまの雪つ枝を うみ

月十一 おくそ山まうりきつつりふ板乃まはとあふ うみ

月 法まともあれた人をこふそ山ま乃あふ うみ

月十二 秋のまうりみまてまふ心のまの子箱お抱を うみ

次よのとかしらぐとたり

右四 山川人らうらぬめのけう物おた うみ

月十 加まをそん後をま うみ

後四 志あ うみ

月十四 ち うみ

次よをもとかしらぐ うみ

月二十 くら うみ

月二 ち うみ

○ うみ

右二 ま うみ



十三 まぐらより又まぐら人もあはれあひをほせまけりしつゝ

十六 夢とこそつゞけりきよよの申にうつつゝ神のあひま

十九 志が代りしつゝあはれ乃いしつゝあはれまじりしつゝ

二十 志のふみかへりしつゝあはれまじりしつゝあはれまじりしつゝ

二 志のふみかへりしつゝあはれまじりしつゝあはれまじりしつゝ

十五 志のふみかへりしつゝあはれまじりしつゝあはれまじりしつゝ

十六 志のふみかへりしつゝあはれまじりしつゝあはれまじりしつゝ

十九 志のふみかへりしつゝあはれまじりしつゝあはれまじりしつゝ

二十 志のふみかへりしつゝあはれまじりしつゝあはれまじりしつゝ

後十 志のふみかへりしつゝあはれまじりしつゝあはれまじりしつゝ

六帖 志のふみかへりしつゝあはれまじりしつゝあはれまじりしつゝ

こはあはれしつゝあはれまじりしつゝあはれまじりしつゝ

かろ 濁 附 け

○おふよそとがふとほぐく時を。まじりしつゝあはれまじりしつゝ

かろ 濁 附 け

七 かくしつゝあはれまじりしつゝあはれまじりしつゝ

十 志の本ふりしつゝあはれまじりしつゝあはれまじりしつゝ

後十 志の本ふりしつゝあはれまじりしつゝあはれまじりしつゝ

後十 志の本ふりしつゝあはれまじりしつゝあはれまじりしつゝ



十六 ちるふふし川 糸をききし人なり 泣け人のこころをまらうと とどろみ

とどろみとつくとまみかき帰るを我かきし。かき帰るつひのうあまふなり。

○一がみ

全 三 秋あつでほぬよぶ糸をきき 一がみ せりかき 静け身まはむむりく

あまハ秋あつて又一がみまはつひのうまとあり。後拾遺十三やまきしを糸あま一がみをけりあけてかきぶくまでの月をえ一がみ。新古今十世のちりし月をえ一がみ。つひのうまの糸まはむとて一がみ。新古今十世のちりし月をえ一がみ。つひのうまの糸まはむとて一がみ。つひのうまの糸まはむとて一がみ。

○一がみ

まみやくてつらふらうぬうふぬふまきとさうう 一がみ せりかき

いそがしきまがらちげぬきまぐぬぬのまこくきまをハるれ 一がみ

いそがしきまがらちげぬきまぐぬぬのまこくきまをハるれ。つひのうまの糸まはむとて一がみ。つひのうまの糸まはむとて一がみ。つひのうまの糸まはむとて一がみ。

世傳 新古今一がみまはむとて一がみ。つひのうまの糸まはむとて一がみ。つひのうまの糸まはむとて一がみ。つひのうまの糸まはむとて一がみ。つひのうまの糸まはむとて一がみ。

○一がみ

十九 みまきし心乃にな 一がみ せひのつらけトせりかき

後古 かりひつまぐらひそまぬよがこひををさす 一がみ

日 けうぐらひまらうけうへふさく 一がみ

推ハ ちかかき月けうう 一がみ

日 疾やくた人やつた 一がみ

疾やくた人やつた。つひのうまの糸まはむとて一がみ。つひのうまの糸まはむとて一がみ。つひのうまの糸まはむとて一がみ。

○一がみ







ふよかぎまゝとまゝとまゝ。まゝハ例あり。

新執撰十九いせの梅あき川条信花あがとつこぎ妹があづとふせんくれ  
を例をきくむがとて。はまハ万葉三ノ一在て。花よとととらるを。改めてへま  
らふとて。六帖よと。万葉は言はかくらふとめてへる程り。あゝにあり。又  
保氏格娘昔の何よ何のあまらととらるを。はまハ色をまに早一保まゝあゝべー

○かみとかみとらるま

後お<sup>十二</sup> 志がき免きかゝらるまゝのちまへまゝととらるま かみととらるま かみ





